

羅生門らしょうもん

芥川あくたがわ

龍之介りゅうのすけ

ある日ひの暮方くれがたの事ことである。

一人ひとりの下人げにんが、羅生門らしょうもんの下したで雨あま

やみを待まっていた。

広ひろい門もんの下したには、この男おとこのほ

かに誰だれもいない。唯ただ、所々ところどころ丹塗にぬり

の剥はげた、大おおきな円柱まるはしらに、蟋蟀きりぎりす

が一匹いっぴきとまっている。

●書ける字はなぞりましょう。声に出して読みましょう。